

学校だより

令和2年12月発行 鳥羽商船高等専門学校
広報・公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号 TEL 0599-25-8013



商船学科の天測実習（太陽高度の測定）



情報機械システム工学科のPBL実習風景



電子機械工学科の実習風景



制御情報工学科のPBL実習風景

- 校長新入生・在学生へのメッセージ
- 校長卒業式式辞
- 学科紹介
- 就職・進学状況
- 学生の活躍
- クラブ紹介
- 乗船実習
- 国際交流プログラム
- 新任教職員紹介
- 学校行事
- 学校通信

新入生をはじめ在学生に伝える言葉

「三つの教えを大切にする」

校長 林 祐司

令和二年十一月十一日の中日新聞朝刊「発言 次世代の声」で愛知県常滑市の十一歳の小学生の文章「三つの教えを大切にする」が掲載されていました。以下、引用します。

「私は守っていることが三つあります。一つ目はあいさつです。あいさつはみんなをいい気持ちにするからです。自分から先にあいさつをするようにして元気なあいさつを心がけています。

二つ目は笑うことです。笑顔だと元氣になれ力がわいてくるからです。何かをあきらめてしまつて氣持ちもしずんだままだと何もできず、成長できないと思います。

三つ目は命を大切にすることです。動物や植物にも私たち人間と同じ命があります。だから、この世でくらすすべての生き物を大切にしていかなきゃ。これら三つの教えを、私はずっと大事にしていくつもりです。」

私も六十七歳の人間として、一つ目のあいさつをするということを守っています。「おはようござい

ます。」「こんにちは」そして「さようなら」をはつきりと相手に伝えるように日々努力をしています。努力をせずに自然に出るようになれば、本物のあいさつになると思いますが、まだ道半ばです。また、三つ目の命を大切にすること、多くの局面で判断を必要とする時に、自分自身の理念としてすべてに優先する規範としています。

さて、二つ目の笑うことです。これが私の頭の片隅にもなく、ハタと困ってしまいました。笑顔だと元氣になれる力が湧いてきて成長できるという小学生の意見に、自らの心の荒涼に気づき暫し反省をしました。どおりで近年、自分自身の成長が止まったと感ずるようになったのかと気づきました。

皆さんは新聞に掲載された「三つの教え」のうち、何ができて何ができないのかを考えてみてください。自分自身を高め、周りの人々を思いやることのできるように一つでも多くできるように努力をしてください。そのことを在学中にできるようにすれば、ご褒美として素敵な未来が待っていることでしょう。

校長式辞

令和二年度商船学科卒業証書授与式
並びに専攻科（海事システム学専攻）修了証書授与式

校長 林 祐司

本日ここに、保護者の皆様のご出席のもと、令和二年度、鳥羽商船高等専門学校「商船学科卒業証書授与式」ならびに専攻科「海事システム学専攻修了証書授与式」をとり行い、わが国の産業を担っていく、新鮮で有能な人材を社会に送り出すことができますことは、本校教職員一同にとりまして、この上ない喜びです。

本日、商船学科を卒業された航海コース十六名、機関コース十七名の皆さんは、五年六月の高等教育の課程を修了し、準学士の称号を授与されました。また、専攻科海事システム学専攻を修了された一名の方は、本科を卒業後、この二年間でさらに高度な専門知識を修得され、大学改革支援・学位授与機構の審査にも合格し、学士の称号が授与されました。卒業生・修了生の皆さんの今日に至るまでの努力を称えますとともに、皆さんを物心両面から支えて来られた保護者の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。

さて、皆さんは、新型コロナウイルス感染症のために、先輩諸氏が体験したことのない遠洋航海実習を体験されました。乗船日も乗船地もなかなか決まらない先の見えない六か月の乗船実習でした。まさに海図のない人生の遠洋航海と同様の航海でした。皆さんは合計十二ヶ月の乗船実習を立派に成し遂げられ、「iron seaman」の仲間入りをされ、強靱な精神と肉体を我が物とされたのですから、今後の人生のあらゆる状況で遺憾なくその力を発揮してください。そして、この強靱な精神と肉体の「強さ」には、「正しさ」と「優しさ」が含まれていることを忘れないてください。

自分を守り、家族を守り、周囲の人々を守る「正しさ」と「優しさ」を持った「iron seaman」は、周りの人々を照らし続けます。これから皆さんの進む道は、世界に広がっています。そして、将来それは再び交わることがあるはずです。その時に、鳥羽商船高専

の卒業生・修了生として自信に満ちた再会をしていただけることを切に願っています。

友達を大切にし、自分の命、家族の命、周りの人々の命を大切に、今後取り組むべき仕事で社会に貢献されることを祈念いたします。恐れずに弛まずに、希望という輝く星に向かってそれぞれの針路をセットしてください。今後の人生の御安航を切にお祈りして、式辞といたします。

令和二年九月二十九日

「ごきげんよう！」



商船学科の紹介



商船学科長

片岡 高志

国立の高等専門学校は全国に51校55キャンパスあります。そのうち商船学科を有する高専は本校を含め5校です。本校は明治14年（1881年）に、東京攻玉社分校鳥羽商船寮として開校し、まもなく創基140年を迎えます。商船学科は幾多の変遷を経て今日に至っておりますが、創基以来一貫して船舶職員の養成を行っております。

商船学科は三級海技士の養成施設としての認定を受けております。そのため座学課程の4年6月とは別に、通算一年の乗船実習が必須となり、修業年限は5年6月と工業系学科より半年長くなっております。この実習は、主に独立行政法人海技教育機構に委託して実施しており、実践的教育を重視する商船学科のカリキュラムの特徴となっております。コロナ禍の影響で、今年度はこの実習が延期となり、また一部が在宅学習に変更となりました。そのような状況下においても、実習再開に向けて自己管理を徹底し、感染症対策を行い、実習訓練を終えた学生34名が見事に卒業を果たしました。卒業生諸君の今後の更なる活躍を祈念しております。

さて、このコロナ禍の影響は今後も続くことが予想されます。商船学科の授業や実習においても未だ不透明な部分がありますが、学生諸君は与えられたそれぞれの環境の下で、日々の努力を怠らず、学業

に専念してください。皆さんがその実力をいかに発揮する日は必ず訪れます。

商船学科の学生に強く望むことは、規則正しい生活習慣と、毎日勉強する習慣を身に付けることです。特に、1年生は一度もキャンパスに来ることもなく、前期の全てを不慣れな自宅学習で乗り越えました。とても大変だったと思いますが、ここで培った経験は必ず生きてきます。低学年のうちに基礎科目（英数国理社など）をしつかりと学び、専門科目の学習に繋げて欲しいと思います。入学時に抱いた夢が実現するように、立派な海技従事者となっていくことを期待しています。

情報機械システム工学科の紹介



情報機械システム工学科長

出江 幸重

情報機械システム工学科は2019年4月に誕生しました。以前の工業系二学科（電子機械工学科、制御情報工学科）は、主として学ぶ分野は異なるものの共に電気電子・機械・情報の3分野について学ぶ学科であり、卒業後の進路も似通っていました。

中学生からどちらの学科を選択して良いかわからないと言われることもありましたが、そこで、工業系二学科を電気電子・機械・情報からなる大括りの学科に改組し、学年の進捗とともに自分の専門分野を確立していく仕組みづくりを行いました。そうして

誕生したのが、情報機械システム工学科です。

情報機械システム工学科は昨年度からスタートし、本年4月には第二期生を迎えました。しかし、コロナウイルスの影響で入学式は中止、前期授業はすべてオンラインの遠隔授業となりました。1年生の授業では学校に登校できない不安をできる限り解消できるよう、オンライン授業の中で各自が地元を紹介するスライドを作成し、画面と音声による説明を全員で共有して発表しました。また、グループを作って音声や文字のチャットを使用してコミュニケーションをとり問題や課題に取り組んできました。後期に入り対面授業が再開し、コロナ対策を行いながらも実験や実習ができるようになりました。学生たちからは、学校に登校できて勉強や実習に取り組めることが楽しい、という言葉をよく耳にします。

本学科の特色のひとつはPBL（Project Based Learning）教育です。1年生LEGOによるロボットの製作と制御プログラムの作成を行っています。2年生ではArduinoマイコンを用いたハードウェア制御の基礎と実用的なシステム構築を学びます。3年生以上のPBLでは、地域の問題解決や学外コンテストへの参加を予定しています。

情報機械システム工学科では机上の勉強だけでなく、上記のような実践的な教育に力を入れており、卒業後に社会で活躍できる人材を育てていきたいと考えています。

一般教育科の紹介



一般教育科長

鈴木 聡

本年度の一般教育科は昨年度末に数学科の教授が急逝されたこと、さらにコロナの影響により対面授業が難しくなり、オンライン授業へ移行したことに伴い、授業内容も変化せざるをえなくなりました。中でも一般教育科の最大の特徴である一般基礎教育は通常の外部講演等も困難な状況になりました。そこで、前期は一般教育科の教員が各自の専門分野等を生かし、リレー形式の講演を実施することになりました。通常の授業とは異なる形式の講演は思いのほか評判は悪くなく良かったです。また、外部講師の講演も前期は1回だけでしたが、実現することができました。今回の外部講師は東進ハイスクールで活躍なさっていた「カンザキメソッド」の神崎史彦先生です。神崎先生からは「未来を『つくる』ーグローバルとコミュニケーションと探究」と題してこれからの時代に必要なことについて物作りを通してお話しいただきました。後期は、少しずつコロナの影響が減少してきたことから、外部講師を本校に招き性教育やスマホ安全安心講座をオンラインを通じて実施することができました。今後の予定は鳥羽市子育て支援室によるデートDV防止啓発講座や、GTECや英検対策の授業を実施していく予定です。

最後になりますが、一般教育科では4月1日に英語科の伊山先生、10月1日に数学科の榎本先生が新たに着任されました。これにより、総勢14名のスタッフになりました。

専攻科の紹介



専攻科長

宮崎 孝

本校専攻科は、海事システム学専攻と生産システム工学専攻で構成されています。専攻科の2年間の教育課程を修了し、十分な内容の特別研究を行ったうえで、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格すると、四年制大学卒業と同等の学士の学位を取得することができます。

2020年前期(春期)には、専攻科においても、新型コロナウイルス(COVID-19)の影響を大きく受けました。本科同様に、生産システム工学専攻の入学式が中止され、前期授業開始が遅くなり、Microsoft Teamsを利用した遠隔授業が開始されました。学生の住居のネットワーク環境やIT能力に問題がなかったため、多少の混乱はありましたが、遠隔授業は概ね順調に進み、学生の大きな不満もなかったようです。緊急事態宣言の解除後は、専攻科生の寮生が現状ではないため、本科に先立ち対面

での授業が再開されました。特別研究と実験を除いた授業では、登校しての受講と遠隔での受講の選択が可能でしたが、遠隔を選んだ学生が多く、学生は遠隔授業に上手く順応しているようでした。

入試でも新型コロナウイルス流行の影響を受けました。推薦選抜において、例年では面接試験を行っていましたが、面接に代わるものとして志望調査を追加して、書面のみの変更にいたしました。また、学力選抜においてはTOEICスコアを評価に入れていますが、しばらくTOEICテストの受験ができない状況が続いていました。このため、英語科やグローバル教育推薦室に協力していただき、新たにTOEIC IP試験のオンライン版を開催し、専攻科受験者の評価にも使えるよう対応しました。

10月となり、海事システム学専攻の入学式が行われ、後期(秋期)は完全に対面での授業が再開されました。オンライン授業の利点、対面授業の利点が改めて認識できました。専攻科の授業でも、両方の利点を組み合わせた授業の方法を探っていきたいと思います。

商船学科航海コースの就職・進学状況について



商船学科長兼航海コース主任

片岡 高志

商船学科航海コースの令和2年9月卒業生は16名です。このうち就職が12名、進学が3名、その他1名となりました。海運会社からの求人数は、昨年と比較して外航内航ともほぼ同じであり、ここ数年変わりはありません。心配されたコロナ禍の影響も、今年度の卒業生にはありませんでした。以下に、卒業生の進路の内訳を示します。

就職は全員海上就職で、日本郵船、商船三井オリシャンエキスパート、正栄汽船、宇部興産海運、太平洋フェリー、商船三井フェリー、新日本海フェリー、新日本海サービス、イイノガストランスポート、井本商運、三洋海事、大阪旭海運に各1名が採用されました。進学は、本校専攻科に1名、東京海洋大学海洋工学部に1名です。その他1名は、卒業後に海上自衛隊を受験する予定です。

また、専攻科海事システム学専攻の修了生は1名で、クルーズ客船専門の旅行会社に就職しました。

専攻科修了生は、本校航海コース出身です。

ここ数年の傾向として、航海コースは毎年ほぼ全員が海上就職に就いております。三級海技士の養成施設として、「海運界へ優秀な船員を輩出する」という使命は果たせていると思います。在校生のみならずも先輩に続くよう、より一層勉学に励み、希望の進路に進めるよう頑張ってください。皆さんの夢が叶うよう、学科として精一杯の応援をしたいと思っております。

商船学科機関コースの就職・進学状況について



商船学科機関コース主任

窪田 祥朗

令和2年9月の商船学科機関コースの卒業生は18名でした。大学進学が決まっていた1名も就職に変更したため、18名全員が就職となりました。就職は、海上就職が16名、陸上就職が1名、自主就職が1名となっています。また、海上就職の内訳は、全員が内航で、外航はいませんでした。内航の就職先は、イイノガストランスポート、国華産業に各2名、内海曳船、鹿児島船舶、白井汽船、東京汽船、新日本海フェリー、共栄マリン、名鉄海上観光船、福寿船舶、フェリーさんふらわあ、特殊防災曳船、オーシヤントランス、宇部興産海運に各1名でした。陸上就職は、旭運輸に1名でした。今年度の卒業生は、2級海技士（機関）筆記試験に2名しか合格していなかったこともあり、外航就職希望の学生は、就職活動に苦労していました。年々、外航への就職が厳しくなっており、船舶職員として就職するには、資格取得が重要といえます。

海上就職を希望する在校生の皆さんは、就職活動が始まる（4年生の春休み）までに海技士国家試験に合格できるよう、あらかじめ対策を講じてください。仮に就職できなかったとしても、上級免状を取得しなければ昇進できません。学生のうちに資格を取得すれば、就職にも有利になり、就職後の心配もなくなり、一石二鳥といえます。学生生活を楽しまつつ、勉学にも励んでください。

電子機械工学科の就職・進学状況について



電子機械工学科長

林 浩一

今年度は電子機械工学科5年に、29名の学生が在籍しています。その内7名が進学、22名が就職を希望し、それぞれの進路に向けて活動を行ってまいりました。その結果10月末の時点で、就職希望者は18名、進学希望者は3名の進路が決定しています。

決定した就職先は、機械装置、電気製品、化学製品、食品などの製造業や、通信などのインフラ産業、機械や電気分野のアウトソーシング業など多岐にわたっており、設計や生産技術、保守などの業務において活躍が期待されています。多くの学生は推薦募集で内定を頂いていますが、少数ながら自由応募で内定を頂いた学生もいます。

一方で進学先としては、豊橋技術科学大学2名、和歌山大学1名となっており、いずれの学生も、これまで学んできた知識に関連した学科から、推薦入試で合格を頂いています。

今年度は新型コロナウイルスの影響から、いくつかの企業が採用活動を中止や縮小する等、就職に関しては厳しい状況でした。一方で全体的な傾向としては、これまで以上に、企業は鳥羽商船高専の学生に注目しているように感じています。現在4年生以下の学生は、自分の将来の夢を実現させるために、日々努力をしていただきたいと思います。

制御情報工学科の就職・進学状況について



制御情報工学科長

出江 幸重

制御情報工学科5年生は現在44名在籍しており、そのうち36名が就職希望、8名が進学希望です。2月以降のコロナウイルスの感染拡大により、今年度は例年の就職活動とは異なるものとなりました。採用枠や採用活動の時期・方式を変更した企業もたくさんありました。その中でも早くから希望する会社を決定し、活動を始めることができた学生にはコロナウイルスの影響は少なく、ある程度スムーズに内定をいただけました。ただし、希望の決定が少し遅れた学生は、コロナウイルスの影響を大きく受けることになりました。採用枠の変更で希望を他社に変えたり、オンラインの面接で実力を発揮できなかったりとその影響は様々です。

そのような中でも現状で就職希望者のうち34名の進路が決定しています。コロナ禍においても、学生たちが事前に準備をして就職活動に取り組んだ結果だと思えます。進学は希望者8人全員が進路を決定しています。就職希望者のうち2名は現在も活動中です。

今回の件で早くから自分の将来について考え、準備をすることの大切さを改めて感じました。また、将来の目標を持つことでモチベーションにもつながります。在校生のみなさんは、目の前のことも大切ですが、自分の将来についても考えてみる時間を作ることが大切だと考えます。

専攻科の進路について



専攻科長

宮崎 孝

専攻科の進路ですが、今年の生産システム工学専攻の12名のうち就職が11名で、進学希望者が1人でした。就職者のうち自由応募で応募した学生は5名で、例年より多い年でした。分野については、偏りはありませんでした。

新型コロナウイルスの影響で苦戦する学生が多いかと思われましたが、逆にすんなりと内定をもらった場合が多かった印象があります。結果はともかく、方法や時期に関しては例年と大きく違った年でした。具体的には、直接の対面する面接が少なくなりオンライン面接が半数以上となりました。また、応募書類の締め切りは早かったもの、企業側で採用試験方法の検討や準備のために最初の面接の時期が遅くなる傾向がありました。学生側もオンライン面接や大都市への移動などで苦労があったようです。幸い、採用数を絞ったり内定の取り消しがされたりした例は、なかったようです。

今年度は、悪い方には影響がありませんでしたが、来年度は更に厳しくなることも考えられます。インターンシップに参加できなかった学生が多いため、その影響も心配です。就職活動の時期・方法も変わってくると思われますので、早めの準備が肝要です。

令和2年3月及び令和2年9月卒業生進路先一覧（順不同） 令和2年9月30日現在

商船学科

- 就職先 太平洋フェリー(株)、正栄汽船(株)、三洋海事(株)、日本郵船(株)、宇都興産海運(株)、商船三井フェリー(株)、新日本海フェリー(株)、イノガストランスポート(株)、井本商運(株)、商船三井オーシャンエキスパート(株)、新日本海サービス(株)、大阪旭海運(株)、内海曳船(株)、鹿児島船舶(株)、白井汽船(株)、東京汽船(株)、国華産業(株)、共栄マリン(株)、名鉄海上観光船(株)、福寿船舶(株)、旭運輸(株)、フェリーさんふらわあ、防災特殊曳船(株)、オーシャントランス(株)
- 進学先 鳥羽商船高等専門学校専攻科、豊橋技術科学大学、東京海洋大学海洋工学科

電子機械工学科

- 就職先 (株)村田製作所、八日市事業所、富士ゼロックス三重(株)、花王(株)、(株)Lei Hau'oli、中部電力(株)、出光興産(株)千葉事業所、イオンディライト(株)、パナソニック(株)インダストリアルソリューションズ社、浜松ホトニクス(株)、三菱電機メカトロニクスエンジニアリング(株)、(株)トラスト・ネクストソリューションズ、(株)京都製作所、東海旅客鉄道(株)、(株)東京ウエルズ、(株)NTTフィールドテクノ、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)ジェイバック、(株)富士テクノソリューションズ、パナソニック(株)ライフソリューションズ社、津工場、田中貴金属グループ、田中貴金属工業(株)、シンフォニアテクノロジー(株)
- 進学先 鳥羽商船高等専門学校専攻科、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、千葉大学

制御情報工学科

- 就職先 富士ゼロックス三重(株)、花王(株)、(株)NTTフィールドテクノ、日通システム(株)、(株)NTTネオメイト、(株)アビスト、メタウォーター(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、NECネットエスアイ(株)、NTTコムソリューションズ(株)、美和ロック(株)、ニプロファーマ(株)、日東電工(株)、ナカムラ工業図研、キャノンシステムアンドサポート(株)、東レエンジニアリング(株)、ダイキン工業(株)、(株)FIXER、(株)ネオジャパン、(株)UL Japan、NTTコムエンジニアリング(株)、(株)デジタルハーツ、富士通クラウドテクノロジーズ(株)、第一工業製薬(株)、(株)NTT-ME、日本たばこ産業(株)、東芝インフラシステムズ(株)
- 進学先 鳥羽商船高等専門学校専攻科、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、静岡大学

令和2年3月及び令和2年9月専攻科修了生進路先一覧（順不同） 令和2年9月30日現在

海事システム学専攻

- 就職先 (株)クルーズプラネット

生産システム工学専攻

- 就職先 (株)大気社、シンフォニアテクノロジー(株)、NECネットエスアイ(株)、パナソニック(株)インダストリアルソリューションズ社、(株)FIXER、(株)NTTファシリティーズ関西、竹田設計工業(株)

学生の活躍

2019年度少林寺拳法全国大会inあいち

商船学科機関コース3年

服部 彩喜

私たち少林寺拳法部は、昨年度11月23日～24日に、愛知県豊田市で開催された「少林寺拳法全国大会inあいち」に参加しました。

本校からは、団体演武に男女各三名と補欠に各一名、論文の部に一名が出場しました。

初日に行われた団体演武の予選では、予選敗退という結果に終わりましたが、全国から集まったレベルの高い選手たちの演武、気合や応援など、多くのことを吸収し、学んできました。

二日目には、本選前の開会式にて、事前に審査、選出された二名の優秀論文発表が行われました。私はこの論文で最優秀賞を頂きました。

今年度大阪で開催予定だった全国大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりましたが、私たち少林寺拳法部は、この大会での経験を生かしてさらに成長できるように、日々練習に励んでいます。



第31回高専プロコンで特別賞を受賞

制御情報工学科3年

中村 日奈乃

2020年10月10日、11日に開催された全国高等専門学校プログラミングコンテスト第31回苫小牧大会の課題部門において特別賞を受賞しました。

新型コロナウイルスの影響で学校に行けずに体育館を使用して部活動を行うことができないバレーボール部員の手助けとなる仕組みを提案しました。私たちが開発した「SHINDENSHIN」は、近くの広場などで動画を撮影し、その動画から球速、高さ、落下位置を検出することで自分の打ったサーブの分析を行うことができるほか、チーム内で共有することでアドバイスなどができる機能を実装しました。

コンテストは、オンライン開催となりましたがプレゼンテーションとデモを行いました。主催者の方々ははじめ審査員の皆様の温かいご支援があったからこそ安心して発表することができました。

私たちはこのコンテストを経て、チームワークの大切さ、周りの方々の支えなどを強く感じました。初めての経験でしたが、とても良い経験となりました。



ロボコンに参加して

電子機械工学科4年

守屋 和輝

今年のロボットコンテストは、コロナ禍による影響で例年通りの開催とはならず、オンラインでの開催となりました。テーマは「はぴ☆ロボ自慢」。だれかをハッピーにするロボットを作り、オンラインでパフォーマンスを行うというルールです。

私達は今年、講義の実験で集まったメンバーで参加しました。今年は特に製作期間が短く、夏期休暇に学校に集まって作業をすることが困難だったこともあり、想定していた通りのスケジューリングが出来ませんでした。

ですが、メンバー全員の協力もあり、結果私達が製作したソーシャルディスタンスを保ちながら物を運ぶ手伝いをしてくれるロボット「AGV」は、決勝ラウンドに進出することが出来、惜しくも全国大会出場は逃しましたが、安川電機さん協賛の特別賞を頂くことが出来ました。メンバー全員の努力が実った気がして、とても嬉しく思います。



パソコン甲子園2019で ベストアイデア賞を受賞

制御情報工学科3年

栗田 ちはる

私達はパソコン甲子園2019・モバイル部門に出場し、ベストアイデア賞を受賞しました。

出展作品は『街ごとイルミネーション』という、鳥羽市の街角に配置されている「ビン玉」を利用した、これまでにない旅のおもてなしを可能にする作品です。

この作品を作成する中で一番時間をかけたことはアイデア出しです。どうしたらスマホの画面に夢中にならず観光地を楽しむことができるのか、他の場所では体験できない仕掛けを作ることとできないか、など沢山話し合いをしました。長い時間と回数を重ねた作業でしたが、より良いものを作ろうとアイデアを出し合うこの作業が私は好きでした。

本番ではベストアイデア賞を受賞することができましたが、私は正直まだまだだなと感じました。技術力やプレゼン力など足りないことばかりだと思いました。ここで満足せずに「これがいい!」と納得できる作品を目指してこれからもコンテストに参加していきたいです。支えてくださった方に感謝します。



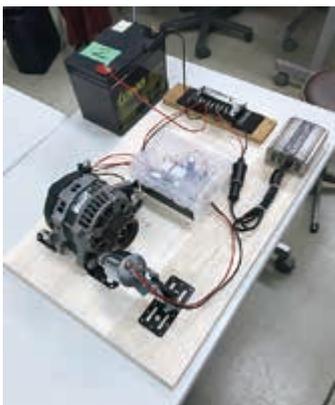
システム創成コンテストへ向けて

制御情報工学科4年

上井 翔太

私たちは、システム創成コンテストに参加するために『チャリー君』という自転車発電システムを開発しています。『チャリー君』は誘導モータを自転車によって回転させ発電を行い、その電力でスマートフォンや100Vで動く家電製品を動かします。そして、自転車を漕いでいる人がどれだけ漕いだかをディスプレイに表示して、どの程度発電に貢献したのかをわかりやすくするシステムです。このシステムは、鳥羽市と連携して災害時の避難所などで使用することを想定しています。

私たちは、昨年のシステム創成コンテストにこの作品で参加するつもりでした。しかし、新型コロナウイルスの影響によりコンテストが中止となってしまいました。そこで、この『チャリー君』を改良してもう一度、今年のシステム創成コンテストに参加します。主に発電機構造である誘導モータをエアギャップ発電機に改良し、発電量の増加を計画しています。今年こそは、コンテストで入賞を目指していきたいと思えます。



開発中のシステム

第8回気象観測機器コンテストで 最優秀賞・優秀賞を同時受賞

制御情報工学科5年

川添 大和

私たちは、スプリングクラウの自動制御で、みかんの日焼け果を防止する『日焼け果ORANGE(オランジェ)』というシステムを作成し、第8回高校・高専気象観測機器コンテストで最優秀賞を受賞しました。

日焼け果は、みかんの表面温度が約+15℃にも達し果実部蒸散が激しくなり、みかんの果頂部の果皮が乾燥状態になることで生じます。これにより、みかんの商品価値がなくなり出荷できずに廃棄されているのが現状です。

そこで三重県御浜町の農園に本システムを導入したところ、みかんの表面温度は5~7℃低下、日焼け果発生率の低下と同時に作業の省力化、高品質果実の安定生産を実現できました。

私はコンテストに初出場で不安でしたが、チームメイトや教職員の方によるサポートで、一人では絶対にできないとても貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

また、今回のコンテストでは私たちのほかに『MIKAN(まじでいいかんじにあまくなる)』が優秀賞を受賞しました。



(最終選考にて各チーム紹介時の様子
左から岡本、村田、川添、里中)

DCON2020で準優勝を受賞

制御情報工学科4年

小木曾 史織

私たちはカンキツの高品質化を目指すシステム「A Iウオーター」を作成し、出場したDCON2020で、準優勝という結果と2つの企業賞をいただきました。

このコンテストは本来4月に東京で、3日間にわたっての開催が予定されていきました。しかしCOVID-19の影響によって延期になり、最終的に1日間に短縮した上で8月にオンラインで開催されました。

DCONは技術面や実用性に対する評価に加え、「事業性」に関する評価の割合が非常に大きく、そのアピールが非常に難しかったです。システムを販売した際の売上や利益の伸びなどをデータに基づいて計算しなければならず、私たちにはそのような計算をする知識がほぼありませんでした。計算をする際、経理等の専門用語の理解を要する場面も多く、そのような時はチームにアドバイスをしてくださる「メンター」の方に何度も相談をさせていただきました。資料の修正をしていきました。また、私個人としてはプレゼンター

ションを行ったことが鮮明に記憶に残っています。今回はオンライン開催のため、事前に学校で発表を行ってカメラで撮影していただきました。通常の発表のように目の前にたくさんの方はいませんが、カメラで撮られるだけでも緊張してしまう私は本番に備え、言葉の言い回しや表情、動きまで念入りに練習をしました。その結果、本番では無事発表をすることができました。この経験によって、発表することを極度に恐れなくなったのが私自身のDCONを通じての成長だと感じています。



DCON2020を受賞

制御情報工学科4年

辻 陸玖

第1回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2020に出場し、全体の6位という成績を収めました。私たちは「とば海鮮丼きつぷ」という、各店舗に設置された顔認証デバイス、通行量調査端末から得られたデータを元に、鳥羽の観光客をターゲットにして「三密を避けた旅行を支援する」システムを開発しました。

これまで私は、システムを作り上げて技術が評価されるコンテストに参加したことがありませんでした。今回参加したコンテストでは、技術だけではなくビジネスプランとして運用できるかを評価されるので、システムを作っているだけでは分からないことを知ることができました。事業計画をチームメンバーが苦労してつくっているのを見たときに、「システム開発・運用にはこんなにお金がかかるんだ」ということに気づきました。また、利用してくれる人がいるから、自分がシステムをつくる意味があるということを実感しました。

コンテストでは、自分たちが作ったシステムに対し、企業評価額が1億

円、ベンチャーキャピタルの方からは3000万円の出資額と評価されました。この3000万円という出資額は、事業計画の最初の1年分とぴったりの同じ金額でした。単純に嬉しい気持ちだけではなく、「本当に、ビジネスを身近に感じる気持ちが湧き上がりました。」

本プロジェクトは現在、相差地域で機材設置に協力していただきデータ収集を継続しています。

自分たちの技術を用いて相差地域を中心に鳥羽の観光業のサポートをするために様々なサービス、システムを展開し、鳥羽を盛り上げていきたいと思います。



クラブ紹介

サッカー部キャプテンを通して

商船学科航海コース 3年

船井 大暉

サッカー部のキャプテンを先輩から引き継ぎ、多くの経験をさせてもらいました。キャプテンをすることで全体を見渡すことができなくなり、気がついたのが「サッカーができるありがたさ」と「チームの雰囲気良さ」の2つの「環境」があることです。

世界を目を向けると、簡単にはサッカーをすることができない国が沢山あります。しかしサッカー部には40人の選手と7人のマネージャーがいて、部室、コート、ゴール、ボール、スパイクなど、サッカーをする条件が全て揃っています。毎日サッカーができるありがたさを感じています。

またチームの雰囲気が良いのは、試合に勝ちたいと強く思う選手が増えたからだだと思います。今のサッカー部を支えてくれているのは教えにきてくれる上級生たちと、サッカーにとても前向きな下級生たちです。経験が豊富な上級生たちとともに練習する下級生達はどうどん上達しています。

私はこの2つの「環境」にとても感謝しています。そして、その感謝に対して恩返しできるように、高専大会などの大会に向けてこれからの練習していきたいと思えます。



バスケットボール部の紹介

電子機械工学科3年

中岡 僚真

私達バスケットボール部は現在20人で活動しています。活動日は火、水、金、土、日曜日です。活動時間は平日16～19時半、休日は9～12時です。練習内容は個人のスキルを磨くものや、チームでの合わせの動きの練習など様々です。練習は楽しくて楽ではありませんが皆が声を掛け合うことで頑張っています。普段の練習では外部コーチの指導の下練習をしています。バスケットボールの技術を磨くだけでなく人間としても成長できます。

今年度はコロナの影響で多くの大会に出場することができませんでした。先輩方の引退試合や高校最後の大会に出れなかったのは普段練習していた分、本当に悔しかったです。この悔しさをバネにチームとして次の高専大会に向けて頑張っていく予定です。



バドミントン部の紹介

制御情報工学科3年

林 蓮

私たちバドミントン部は、現在部員21名で活動しています。初心者で入った学生がほとんどですが、みんなで楽しく練習しています。活動内容は主に基礎練習、試合などを中心に行っており、未経験者には経験者の先輩たちが付いて優しく指導しています。新人生歓迎会や送別会などの部員同士の交流を深めるための楽しいイベントも行っています。

今年度はコロナウイルスの影響で、高専大会や高体連の大会が中止され、結果を残すことができませんでした。来年度の大会では団体、個人戦でより多くの入賞を目指したいと思います。そのためにも日々のクラブ活動の中で、目標をもって練習に取り組んでいきたいです。さらに、後輩の育成にも力を入れていきたいと思っています。

現在、部員募集中です！特に女子部員が少ないので興味がある方は部員にお声がけください！



文芸部紹介

制御情報工学科4年

米田 有美子

わたしたち文芸部は、イラストの作成と小説の執筆などを中心として活動しています。現在、5年生8名、4年生7名、3年生6名、2年生3名、1年生8名の計32名で、日々創作活動に励んでいます。

部活の雰囲気はアットホームで、上級生・下級生関係なく賑やかに雑談を交えながらの活動です。初心者も多く、互いに描き方のコツなどを教え合いながら、切磋琢磨しています。

主な活動内容は海学祭での展示です。コンテストや展覧会に出品する学生もいます。今年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響で前期は部活動を実施することができず、外部の展覧会も中止になったりして、部としての創作活動ができませんでした。しかし後期から学校への登校が再開されたので、手洗い、アルコールによる消毒、部屋の換気を徹底し、感染予防をしながら、活動を再開しています。



「日本丸」での乗船実習

商船学科航海コース5年

岩場 千佳

私たち航海コースは、4年生の10月1日から5カ月間、海技教育機構の練習船「日本丸」で乗船実習を行いました。帆船として有名な「日本丸」ですが、今回の実習は、帆走ではなく、ずっと機走でした。帆走を楽しみにしていた人からすれば少し残念な思いもありましたが、全員、一生懸命実習に取り組んでいました。

10月から12月は、国内航海。1月から2月は、シンガポールを目指して遠洋航海。2年生の頃の乗船実習とは違って、より詳しい専門知識、技術を身につけることが出来ました。航海当直、出入港作業、航海計画の立案や六分儀での天測計算、遠洋航海に向けて班ごとに推薦航路や海賊対策、シンガポールの港湾オペレーションセンターについてなど、航海に必要な情報を集めたりしました。

遠洋航海では、常に清水の節水、海水風呂、夜間の航海当直、無線当直、機関当直、六分儀で太陽・星の観測、船体整備、時には船酔いに苦しんだり、運が良い日にはイルカを発見した



り、グリーンフラッシュなど日常生活では、なかなか体験できないことを体験することが出来ました。色々と大変なこともありましたが、遠洋航海に少しずつ慣れ、シンガポールに着き、無事に日本へ帰ってきた時は、心がホッとしました。

5カ月の乗船実習で学んだこと、身につけたことを来年の乗船実習、立派な航海士になるために活かしていきたいと思っています。

「銀河丸」での乗船実習

商船学科機関コース5年

黒田 朗渡

私たちは4年生の後期から海技教育機構の練習船「銀河丸」で、5ヶ月間の乗船実習を行いました。海外ではなく、西日本の太平洋側や瀬戸内海を中心に国内を航海しました。

今回の実習では、2年次の短期実習と比べ、より詳しく、実践的な実習を行いました。例えば、配管調査と呼ばれる機関室内の配管を自分たちでたどりながら、機器同士がどのような流れでそれぞれの仕事をしているかといったことを5ヶ月間みっちり教わりました。まだ責任が伴わない中での実習であり、就職してからこの実習で培ったことを100パーセント発揮できると思えません。座学で学んできたことを実際に動いている機器に触れて学べたことは、今後の人生においてとても有意義なものになったと思います。

実習だけでなく、日本各地に寄港し、それぞれの場所での観光や、名物など遊びの面でもとても楽しい5ヶ月でした。中でも鹿児島で食べたシロクマかき氷と、運動上陸で訪れた小豆島のオリーブ園は、とても記憶に残る



いい思い出になりました。

乗船実習では5ヶ月間狭い船の中でたくさんの人と共同生活をしながら実習を行うので、プライベートな時間を作るのが難しく、辛く感じることもありましたが、上陸などの楽しみもあるので、私はこの5ヶ月間を自分が成長できた素晴らしい5ヶ月間にできました。来年の6ヶ月実習では、更なる成長をしていきたいと思っています。

国際交流プログラム



本校におけるグローバル教育及び国際交流の推進を図るため、グローバル教育推進室を中心として、毎年多くの国際交流プログラムを実施しています。主なプログラムは、次のとおりとなります。

① SMA鳥羽丸トレーニング

SMA（シンガポールマリタイムアカデミー）は、外部との連携を取りながら学生たちに様々な体験学習を行わせています。協定校である本校としても、その協力体制のもと、本校学生と乗船実習をさせることを主たる目的として日本の文化を体験する場を提供しています。

③ MELキャンプ

交流協定を締結しているSMAで実施しているMELキャンププログラムへ学生を派遣しています。期間の前半はSMAでの語学研修を実施し、後半は客船内で研修を実施しています。また、現地日系企業への訪問も行います。

② 日タイ高校生サイエンスフェア

TJ-SSF 2020への参加を通じて学生のコミュニケーション能力と学術能力の向上を図ります。開催中は分科会での発表やフィールドワークなどを行いながら、交流活動を行います。

④ KCC国際インターンシップ

アメリカのハワイ州カウアイ島にて、伝統的な航海カヌーの航海訓練、維持作業等を経験し、専門的知識と共にコミュニケーション能力を培います。また、期間中の前半では語学研修を中心とした座学を行います。

⑤ SPPプロジェクト

高専機構と包括協定を締結しているシンガポールポリテクニク（SP）との交流事業であり、SP学生が主体となるプロジェクト型学習（PBL）と本校学生協同のフィールドワークで構成されます。



国際交流プログラム

事業	受入先
SMA鳥羽丸トレーニング	鳥羽
日タイ高校生サイエンスフェア	タイ
MELキャンプ	シンガポール
KCC国際インターンシップ	アメリカ合衆国ハワイ州カウアイ島
SPPプロジェクト	鳥羽

新任教職員紹介



事務部長

坂野 利宏



4月1日付けで岐阜大学から異動しました。前任の大学では奨学金や授業料免除、課外活動、学寮など主に学生さんの生活支援を担当していました。出身は福井県で、過去に福井、石川で高専の勤務経験はあるものの長い歴史を持つ商船高専は今回が初めてで、組織運営方法などでは独特の文化を感じます。今や本校は船舶の運航技術者の育成と情報機械システムに精通した実践的技術者の育成を両立しており、林校長の下、更なる発展に向け努めてまいります。お、学生さんとの朝の挨拶を交わすたびに高専に来たことを実感すると同時に、そんな学生さん全員が立派に社会に巣立っていきけるよう精一杯サポートしなくては、との思いを強くしています。

情報機械システム工学科 准教授

近藤 正樹



今年2月に赴任しました情報機械システム工学科 准教授 近藤正樹と申します。前職は東京海洋大学に勤めておりましたが、博士号取得を機に縁あつて本学にお世話になることになりました。東京海洋大学では船舶の運航からプログラミングの授業支援まで様々なことを経験しました。また色々な方との出会いがあり、環境にも恵まれました。現在ディープラーニングに関する研究を行っていますが、この研究を始めたきっかけは東京海洋大学でお世話になった先生から頂いた言葉からです。学生の皆さんは5年間という長いようで短い期間の中で、何人もの先生や同級生たちとの出会いがあると思います。皆さんもぜひ一人一人との出会いを大切に学校生活を過ごしてください。

一般教育科(英語) 准教授

栢山 剛



鶴の飛来地で有名な鹿児島県出水市出身です。専攻はアメリカ政治外交史です。名古屋で3年間博士課程に在籍していましたが、その後、鹿児島・宮崎の高校で19年間英語教員をしておりました。その間に、将棋部顧問を10年間、サッカー部顧問を6年間しました。福岡での大学時代に、落語研究会と将棋部にも所属しておりました。好きな言葉は「七転び八起き」で、私の将棋の棋風や人生哲学もこれに基づいております。

この度、周囲の皆様のおかげで高専教員採用7度目の挑戦で初めて幸運を掴むことができました。鑑真和上が7度目の挑戦でようやく日本(鹿児島県坊津)にたどり着くことができた心情と同じでしょうか。どうぞよろしくお願いたします。

一般教育科(数学) 助教

榎本 翔太



2020年10月1日付で一般教育科の助教として着任いたしました榎本翔太(えのもとしょうた)と申します。

生まれは神奈川県相模原市、のどかな田舎町の出身だと思っていました。が、割と都会だったことに最近気づかされました。専門分野は数学の関数方程式論で大学・大学院では流体基礎方程式の数学解析について学習・研究を行ってきました。

数学は登山に例えられることがよくあります。目指す頂上は1つでもその過程は人それぞれであり、舗装された道を行くもよし、崖を登るもよし、どれも正解でそれぞれの楽しみ方があります。時には迷子になることもあるかもしれません。しかし、その歩んできた道が今後の学習において必ず大事な糧となるでしょう。学生の皆さんが目指す頂上への大事な歩をサポートすることが私の仕事であり、その歩みによって大きな人間へと育っていきけるよう尽力していきますので、今後ともよろしくお願いたします。



令和二年度 学校行事

学生主事 坂牧 孝規

学生主事室では、4月末に学校長が発表した新型コロナウイルス感染症への対応方針に基づき、学生会行事・活動のWeb化を図ってきました。これは、ネットワーク環境を利用し、場所・距離・時間に依存しないコミュニケーション可能な環境を構築し、通学生、寮生、留学生に隔たりなく、参加者の多様性がメリットとなる実践の場の構築を目指しています。

現在、学生会の諸活動における評議会、部会、海学祭実行委員会、総務委員会などは、Webを介した参加が可能となっています。また、自転車通学・車両通学の講習会およびその確認テストも、全てWebによる受講が可能となっています。学生が自分の日課に合わせて、効率的な学生生活が過ごせる環境が整ってきました。本年度Webを用いた行事を紹介します。

前期講演会

8月5日(水)に、「新しい生活習慣、みんながみんなを守る」をテーマに、Web講演会が開催されました。

冒頭、林祐司校長より、登校再開に向けた新しい生活習慣についての学校方針が示されました。引き続き、三重県鳥羽警察署生活安全課係長の鈴木裕介様から「遠隔授業世代のSNSに潜む危険と生活安全」をテーマにご講演

いただきました。現職の警察官による現実味のあるお話は、学生のみならず教職員にとっても大変有意義なものでした。最後に、学生主事から、「COVID-19から命を守る生活安全」をテーマに、最新の科学的な情報に基づくCOVID-19への対処方法について話がありました。

リーダーズトレーニング

9月26日(土)に、リーダーズトレーニングが、遠隔会議方式で開催されました。今年のリーダーズトレーニングは、高専高度化推進経費事業の支援を受け、学生主事室、寮務主事室、男女共同参画推進室が共同で、ネットワーク環境を含む学生会諸活動におけるコミュニケーション力およびリーダーシップ力の育成を目的として企画運営されました。今年も、部・同好会、学生会、寮生会のリーダー候補の学生が、通学生は自宅から、寮生はマルチメディア教室から、また講師教職員は会議室からネットワークを介して参加しました。

今年のプログラムの特徴は、リーダーとしての考え方の柔軟性を培うことができるように、それぞれの人の考え方の違いを知り、ネットワークを介したコミュニケーションの難しさを、ネットワーク上のグループワークにより体験することにありました。参加者の顔は、Webカメラを介して見ることはできませんが、実際の会議とは異なり、戸惑う状況も見受けられました

が、学生の対応力の早さに驚かされました。

海学祭

10月24日(土)、25日(日)に、海学祭が、「黎明」をテーマに開催されました。今年度の海学祭は、一般公開を行わず、学生は登校、あるいはWebによる参加となりました。

ライブ、ダンス、コンテスト、抽選会などのイベントは、第一体育館で開催されるとともに、Webによる配信が行われました。体育館で開催されたイベントの中には、三密防止のため、入場制限となるイベントもありました。会議室に設置したスタジオでもコンテンツ、鳥羽丸紹介、学科紹介、部活動紹介などの配信が行われました。

今年度の海学祭の来場者は、例年に比べて多くはありませんでしたが、Webを含め40名を超える参加者がありました。海学祭に携わった皆さんにとっては、最新技術を用いた様々な挑戦があり、内容の濃い学園祭だったと思います。

校内就職支援セミナー

12月9日(水)に、校内就職支援セミナーがWebで開催されました。就職活動においても、遠隔によるセミナー開催や、遠隔面接が一般化してきました。学生の皆さんには、新しい方法で、新しい社会を生き抜く活力を身に付けてもらいたいと思っています。



写真提供 S5 植木龍哉 (写真部)



卒業式及び修了式の挙行について

令和2年3月15日（日）に令和元年度第31回電子機械工学科及び第28回制御情報工学科卒業証書授与式並びに第14回専攻科（生産システム工学専攻）修了証書授与式を、令和2年9月29日（火）に第49回商船学科卒業証書授与式並びに第13回専攻科（海事システム学専攻）修了証書授与式を挙行了いたしました。

卒業生・修了生は鳥羽商船高専での思い出を胸に、晴れやかな姿で本校を巣立っていきました。



商船学科卒業式での登壇礼（とうしょうれい）の様子

公開講座・出前授業実施

本校では今年度も、小中学生を対象に学びの機会を提供すること・鳥羽商船の魅力を伝えることを目的として、公開講座「サイテクランド2020」を企画しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、受講される皆様の安全を考慮しました結果、中止となりました。次年度以降新たな企画を行っていく予定です。

出前授業では依頼があった鳥羽市内の中学校等を訪問し、オリジナル下敷き作りを実施、普段経験することができない授業を体験していただきました。このほかに、鈴鹿市内の中学校2校からの依頼で、上級学校の体験授業として「商船概論」の授業を行い、進路として商船学科・船に関する仕事を知っていただく良い機会となりました。秋以降実施を予定している講座もあり、鳥羽商船を知ってもらいたい機会になればと思います。



オリジナル下敷き作り講座



公開講座一覧 サイテクランド in 鳥羽商船高専

講座名称	開催日時(※すべて中止)
小型辞書の展示（講演）	7/4（土） 10:00～11:30
船員の仕事 in 鳥羽商船（鳥羽クルーズ）	7/26(日) 9:00～15:30
英語高速学習 ～中1で英検3級へ～	8/3（月） 10:00～11:00
英語の絵本を読もう	8/4（火） 10:00～11:00
英会話のための文法	8/5（水） 10:00～11:00
親子で工作（ソーラーで動くおもちゃ工作）	8/7（金） 9:30～12:00
3Dプリンタでオリジナルグッズを作ろう	8/17(月) 9:30～12:00
IchigoJamでマイコンプログラミング (U16プログラミングコンテスト三重大会事前講習会)	8/21(金) 10:00～16:00 8/22(土) 10:00～16:00
おもしろ理科実験	8/21(金) 9:00～12:00
3Dプリンタでオリジナルグッズを作ろう	8/24(月) 9:30～15:00
新型コロナウイルス感染症の治療を支える医療機器と工学技術 ～体験生体計測～	8/25（火） 9:30～12:00 (出前授業応談)

出前授業一覧

講座名称	開催日時(予定も含む)
商船概論	10月7日(水)
商船概論	10月13日(火)
オリジナル下敷きを作ってみよう	11月5日(木)
ichigojamのマイコンプログラミング	2月28日(日)
LEGOブロックを作ろう	3月6日(土) もしくは 3月13日(土)



編集後記



本年度は皆が経験しなかったことがたくさん起こる年となり、また新たな挑戦が多い年度でもありました。今回も無事に学校だより第92号が発行できて、執筆・編集他、皆様のご協力に感謝しております。第92号は諸事情から約1年ぶりの発行となりました。今回もたくさんの学生活動・行事報告等がありまだまだ掲載しきれない活躍もたくさんありましたが、本校の一端をみせられたかと自負しております。部活動の紹介をはじめ、さまざまな学生・研究室の活動を載せておりますので、じっくりとお目通しください。（澤田記）

